

The 11th Tokyo Performing Arts Market 2007

東京芸術見本市2007

International Showcase 2007

インターナショナル・ショーケース2007

開催報告書



Re:Communication

connected



150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-1-2 サウスビル3F
Tel:03-5724-4660 / Fax:03-5724-4661
tpam@tpam.or.jp / www.tpam.or.jp

■ 目 次 ■

00.	総括	P.2
01.	開催概要	P.3
02.	参加者内訳	P.4
03.	海外参加者一覧	P.6
04.	ブース・プレゼンテーション	P.11
05.	ヴィジュアル・プレゼンテーション	P.13
06.	TPAM フリンジ	P.15
07.	セミナー	P.17
08.	インターナショナル・ショーケース 2007	P.25
09.	レセプション／ランチ・ミーティング	P.29
10.	パブリシティの記録	P.30
11.	主な掲載記事	P.33



00. 総括

東京芸術見本市 2007 は 3 月 5 日～8 日に実施され、多くの方にお集り頂いた。国内外問わず、自身の年間スケジュールに本見本市を入れてくださる関係者の方が増えたと聞き、特に海外から自主的に参加されるプレゼンターの数に過去最高だった。日本の舞台芸術の代表的な催事の一つとして定着してきた感がある。

今回の東京芸術見本市では、①会期の変更、②ヴィジュアル・プレゼンテーション新設とブース参加法の改定、③TPAM フリンジの強化、などとともに、プレ・セミナー実施を含む個々のセミナーもニーズに合わせ精査した。

①については、これまで会期は概ね 8 月末から 9 月初旬だったのを 3 月に移した。東京では 3 月に舞台芸術の公演や催事が集中しているので、より多くの公演を観られるこの時期の実施は、特に遠方からの来場者にとって有益であろうと考えたからだ。年度末の多忙の時期と懸念する声もあったが、参加プレゼンターの評判は概ね良好。当の参加カンパニー、アーティストは、公演と同時期、もしくは近い期間の実施は多くのプレゼンターに見せる良い機会と捉えると同時に、人手が足りず参加が負担でもあるという矛盾に悩まされるようだった。②、③についても、改善点はあるものの概ね好評。詳細については報告書本文をご参照頂きたい。

インターナショナル・ショーケースは 4 回を迎え、引き続きディレクター制にて実施。今回は、人形劇、ストリートダンスを専門とする芸術家にご参加いただいた。2003 年、2004 年と試行錯誤されたショーケースは、昨年度にあたる 2005 年版では多くの作品が公演を実現するなどの成果を挙げたが、今回も引き続いて国内外のプレゼンターなどの評価は上々であった。予算面などが厳しくなってきたおり、この質を落とさずにいかに継続できるかが鍵である。

今年のテーマは「Re:communication (リ・コミュニケーション)」。繰り返し出会い、コミュニケーションをとろうという意を込めた。長期にわたって参加している団体が、より具体的な成果が上がっている。また、一緒に作品を作るアーティストを探しにはるばる海外から参加したプレゼンターも少なからずおり、参加団体／者はすぐに「結果」につながる拙速な出会いばかりを求めている訳ではないのかもしれない。具体的な意味でも抽象的な意味でも、舞台芸術者の出会いとコミュニケーションの形が参加者自身により様々に創造されているのが実感される。

「見本市」という場での出会いが、その後のコミュニケーションにつながり、より多くの「出会い」が生まれて行く場となるよう、より一層尽力したい。

末筆になりましたが、参加者の皆様、各関係者の皆様には深く御礼申し上げます。

東京芸術見本市事務局

01. 開催概要

催 事 名：東京芸術見本市 2007／インターナショナル・ショーケース 2007

会 期：2007 年 3 月 5 日（月）～8 日（木）

会 場：東京国際フォーラム／丸ビルホール ほか

* 丸の内元気文化プロジェクト参加事業

<東京芸術見本市 2007>

主 催：東京芸術見本市 2007 実行委員会

（構成団体：国際交流基金／財団法人地域創造／国際舞台芸術交流センター）

助 成：スペイン文化省グラシアン基金（Subvencionada por Programa

“Baltasar Gracián” del Ministerio de Cultura de España）

後 援：外務省／総務省／経済産業省／文化庁／東京都／社団法人全国公立文化施設協会

協 力：Asahi アサヒビール株式会社／セイコーエプソン株式会社／

メルキュールホテル銀座東京／オランダ王国大使館／チェコセンター／

フィンランドセンター／リトアニア共和国大使館

EU・ジャパンフェスト日本委員会／財団法人大阪 21 世紀協会

宣伝協力：株式会社ポスターハリス・カンパニー

併設事業：財団法人地域創造主催セミナー（共催：社団法人全国公立文化施設協会）

国際交流基金グループ招聘事業

提携事業：東京国際芸術祭 2007

<インターナショナル・ショーケース 2007>

主 催：文化庁

企画・制作：国際舞台芸術交流センター

特別協力：丸ビル

参 加 料：	ブース・プレゼンテーション（通常料金）	55,000 円
	ブース・プレゼンテーション（早期割引）	50,000 円
	ヴィジュアル・プレゼンテーション	35,000 円
	TPAM フリンジ	30,000 円
	4 日間通しビジター・パス	4,000 円
	1 日ビジター・パス	2,000 円
	ランチ・ミーティング（1 人／各日）	1,500 円
企 画 数：	セミナー	9 企画
	ショーケース	7 企画

02. 参加者内訳

1. ビジター参加者数

4日間参加者	318名		
国内参加者	91名		
海外参加者	60名		
国内招待者（駐日大使館関係者を含む）	133名		
海外招待者（TPAM 招聘者等を含む）	34名		
1日参加者（海外参加者3名を含む）	337名		
3月5日	42名	（参加可能者数）	360名
3月6日	162名	（参加可能者数）	480名
3月7日	127名	（参加可能者数）	445名
3月8日	65名	（参加可能者数）	383名
4日間ビジター参加者のべ人数			1,668名

2. 出展・アーティスト参加団体数

ブース・プレゼンテーション参加団体	34団体	（39ブース）	
ヴィジュアル・プレゼンテーション参加団体	29団体		
TPAM フリンジ参加団体	13団体		
参加者数（各日）			308名
参加者数（4日間）			1,232名

3. 延べ参加者実数

2,900名



4. 各企画の参加者数（入り口にてカウント）

■セミナー		総席数	入場者数
3月6日	メキシコの舞台芸術事情	24 席	25 名
	地域を越えてつながる・ひろがるネットワーク	63 席	67 名
3月7日	ブラジルの舞台芸術事情	24 席	32 名
	もう一度考える、ワークショップでできるごと	63 席	62 名
	公立文化施設における政策評価のあり方を考える	100 席	160 名
3月8日	電子媒体による新しい広報・宣伝スタイルの提案	63 席	81 名
	韓国における舞台芸術のいま	63 席	44 名
	オーストラリアー現代音楽への新しいアプローチ	117 席	32 名
	チェコの舞台芸術、スペインの舞台芸術	117 席	50 名
		計	553 名
■ヴィジュアル・プレゼンテーション			
3月6日	ダンス	120 席	133 名
3月7日	演劇	120 席	127 名
3月8日	音楽・複合ジャンル	120 席	87 名
		計	347 名
■ランチ・ミーティング他			
3月5日	オープニング・レセプション	200 席	221 名
3月6日	ランチ・ミーティング	100 席	113 名
3月7日	ランチ・ミーティング	100 席	122 名
3月8日	ランチ・ミーティング	100 席	90 名
		計	546 名
		総計	1,446 名
■インターナショナル・ショーケース 2007			
3月5日	2007 年、ジャズの新しい展開	234 席	175 名
3月6日	映像ショーケース：「映された」身体表現にみる戦後から 現在までのアートの諸相とこれから	132 席	80 名
	ゲイジュツなんておいていけ！ 「踊る身体」はストリートにあり！＋ 舞踏という生き方	210 席	288 名
	JOYFUL CALCULATION！／たのしい計算音楽！	234 席	175 名
3月7日	映像ショーケース：日本現代演劇の歴史性をめぐって	132 席	60 名
	新しい人形劇 ― モノ語る世界	210 席	188 名
3月8日	ソウル舞台芸術見本市ショーケース	210 席	113 名
		計	1,079 名
企画参加者延べ人数			2,525 名

03. 海外参加者一覧

海外参加者総数： 30 の国と地域から 計 149 名

◆ビジター参加者 計 97 名

【Argentina／アルゼンチン】 1 名

Elisa Graciela CASABE（ブエノスアイレス国際芸術祭ディレクター）

【Australia／オーストラリア】 3 名

Torben BROOKMAN（アーツ・アジア・パシフィック マネージング・ディレクター）

Jane HINDSON（プロデューサー／キュレーター／アーツ・マネージャー）

Athina MOORE（オーストラリア・クィーンズランド州政府日本事務所）

【Brazil／ブラジル】 3 名

Marcos MANTOAN（ブラジル銀行文化センター総合ディレクター）

Joel Naimayer PADULA（セスキ・サンパウロ商業連盟社会サービス専務取締役）

Eliane PARREIRAS（ウジミナス製鉄ウジクルツラ文化センター所長）

【Canada／カナダ】 3 名

Norman ARMOUR（プッシュ国際舞台芸術祭エグゼクティブ・ディレクター）

Sandra BENDER（カナダ・カウンシル・フォー・ジ・アーツ）

Colin McINTYRE（マッキンタイヤー・インターナショナル・アーツ・マネジメント代表）

【Colombia／コロンビア】 1 名

Ximena GARNICA（ケイヴ・オーガニゼーション共同ディレクター）

【Czech Republic／チェコ共和国】 1 名

Ondřej HRAB（アルハ・シアター エグゼクティブ・ディレクター兼芸術監督）

【Denmark／デンマーク】 2 名

Gunhild BORGGREEN（コペンハーゲン大学芸術文化学部准教授）

Stig JARL（コペンハーゲン大学芸術文化学部准教授）

【Finland／フィンランド】 3 名

Harri KUORELAHTI（フルムーン・ダンス・フェスティバル芸術監督）

Auli RASANEN（ジャーナリスト）

Pia REPO（ノマディ・プロダクションズ マネージャー）

【France／フランス】 6 名

Clara BAUER（ブエノスアイレス国際芸術祭アーティスティック・アドバイザー）

Eric DESSAUVAGES（ペルメール・プロダクションズ コマーシャル・ディレクター）

Sarah FORD（キャテルネール プロデューサー）

Didier Jacques LE BESQUE（DLB パフォーミング・アーツ）

Yannick MARZIN（カロリン・カールソン ルベール国立振付センターCEO）

Frédéric MOREAU（パリ国立高等音楽舞踊学校 舞踊科副科長）

【Germany／ドイツ】 2 名

Stefan RIEKELES（トランスメディアール）

Bernd SCHERER（世界文化の家ディレクター）

【Hungary／ハンガリー】 2名

Balazs ARATO (国立舞踊劇場)

Krisztina WALE (国立舞踊劇場 国際交流課)

【Ireland／アイルランド】 1名

Loughlin Peter DEEGAN (ダブリン・シアター・フェスティバル芸術監督兼 CEO)

【Lithuania／リトアニア】 1名

Antanas GUSTYS (ヴィルニウス・ジャズ・フェスティバル プロデューサー)

【Mexico／メキシコ】 2名

Jose Luis Cruz ANTONIO (オジンカン国際文化祭総合ディレクター／メキシコ市トラルパン区文化局長)

Jose Luis Parades PACHO (カサ・デル・ラゴ文化センター総合ディレクター)

【The Netherlands／オランダ】 2名

Simon DOVE (スプリングダンス ディレクター)

Pieter A. HOFMAN (オランダ国立劇場ディレクター)

【Norway／ノルウェー】 1名

Silje ENGENESS (アヴァン・ギャルド・シアター・ハウス芸術監督兼マネージング・ディレクター)

【Portugal／ポルトガル】 1名

Paulo Miguel DIAS (UAU マネージング・ディレクター)

【Romania／ルーマニア】 1名

Constantin CHIRIAC (シビウ国際演劇祭ディレクター)

【South Korea／韓国】 29名

BAIK Kwang Sun (韓国国立バレエ団 企画部チーフ・マネージャー)

CHO Choungho (ソウル舞台芸術祭 管理部マネージャー)

CHOI Eun Sun (カルチャー・プロダクション DOMO コーディネーター)

CHOI Sung-yi (韓国バレエ協会理事長)

CHUNG Jiwoon (ソウル・パフォーミング・アーツ・カンパニー会員)

HWANG Woon Ki (カルチャー・プロダクション DOMO ジェネラル・オーガナイザー)

JEONG Jaewal (ソウル・パフォーミング・アーツ・カンパニー代表)

JO Seok Joon (デジョン文化芸術センターディレクター)

Joseph B.S. KWAK (クムホ・アジアナ文化財団)

LEE Hyung Moon (チュンチョン国際演劇祭 企画部長)

LEE In Gweon (ソリ文化の殿堂 CEO)

LEE Jong il (コチャン国際演劇祭代表)

LEE Sung Yeop (ウィジョンブ音楽演劇祭芸術監督)

NAM Dae-gun (韓国バレエ協会ジェネラル・マネージャー)

PARK In Ja (韓国国立バレエ団芸術監督)

Claire SUNG (ソウル舞台芸術祭 海外プログラム担当)

CHOI Nam Im

CHUNG Mi Rye

SUK Do Wan

JO Seyoung

KOH Jooyoung

K.C. LOK (アジア・ミーツ・アジア・フェスティバル)

KIM Kang Sik (韓国文化センター)

LEE Mun Ok

KANG Min Joo (チャコット)
MYUNG Jin Hee
SOUG Jun
YOO Jin Hwan
David K. LEE (アルカディア・レコーズ)

【Spain／スペイン】 3名

Ben L. GARCIA (ベンキサイト・アーツ・マネージメント ディレクター)
Guy MARTINI (カスティージャ・イ・レオン国際芸術フェスティバル ディレクター)
César de PRADO (東京大学東洋文化研究所)

【Switzerland／スイス】 1名

Claude Nicolas Freymond (カンパニー・フィリップ・セール ツアー・マネージャー兼開発部長)

【Taiwan／台湾】 3名

Cedric ALVIANI (INFINE アート・アンド・カルチャー・エクスチェンジ ジェネラル・ディレクター)
CHEN Pei Yao (台湾国立蒋介石文化センター)
HSU Shu Fan (台湾国立蒋介石文化センター)

【Thailand／タイ】 4名

Wraporn KHUNAWONG (CM オーガナイザー株式会社エグゼクティブ・プロジェクト・ディレクター)
Panadcanang TIPPAGOMUT (CM オーガナイザー株式会社エグゼクティブ・プロジェクト・ディレクター)
Kronthong TONARREE (CM オーガナイザー株式会社シニア・クリエイティブ・マネージャー)
Adisak TREESIRIKASEM (Yuk Q 株式会社ディレクター)

【U.K.／英国】 5名

Jude KELLY (サウスバンク・センター芸術監督)
Alexandra McCONNELL (ペルメール・プロダクションズ ディレクター)
Eileen O'REILLY (エジンバラ・フェスティバル・フリンジ 渉外担当プロモーター)
Davide TERLINGO (ダグダ・ダンス・カンパニー)
Elena GIANNOTTI (ダグダ・ダンス・カンパニー)

【U.S.A.／アメリカ】 10名

David J. FRAHER (アーツ・ミッドウエスト エグゼクティブ・ディレクター)
Charles R. HELM (オハイオ州立大学ウェグズナー芸術センター舞台芸術部門ディレクター)
Michael J. Londra (ペルメール・ミュージック、セルティック・レジェンズ芸術監督／アーティスト)
塩谷陽子 (ジャパン・ソサエティ芸術監督)
Peter TAUB (シカゴ現代美術館 舞台芸術企画部ディレクター)
Sixto WAGAN (ダイヴァーズワークス・アーツスペース共同エグゼクティブ・ディレクター／キュレーター)
MK WEGMANN (国立パフォーマンス・ネットワーク代表／CEO)
Martin WOLLESEN (カリフォルニア大学サンディエゴ校イベント・オフィス ディレクター)
吉田恭子 (U.S. / ジャパン・カルチュラル・トレード・ネットワーク ディレクター)
Johann ZIETSMAN (国際舞台芸術協会財団 [ISPA 財団] CEO)

【不明】 6名

Aji GRAIMER
Karyn ALLEN (Homat Vicount 1905)
Rea AMIT
Sanchia Joy FANG
Sara FUNG
解読不能 1名

◆ブース・プレゼンテーション参加者 計 38 名

【Canada／カナダ】 6 名

ケベック・オン・ステージ ― シナール

Paul TANGUAY (マリー・シュイナール・カンパニー ディレクター)

Elisabeth COMTOIS (アジャンス・スタシオン・ブルー エージェント)

Catherine LAPOINTE (ブルバール代表)

Nadine MARCHAND (ラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス エージェント)

Dominic MARCOTTE (テアトル・デ・コンフェッティ エージェント)

Barbra SCALES (ラティテュード 45 代表)

【Italy／イタリア】 2 名

コンパニア・オプラス

Luca BRUNI (オプラス・テアトロ ― 有限会社ラ・テラ・ノーヴァ共同ディレクター)

Mario FERRARI (オプラス・テアトロ ― 有限会社ラ・テラ・ノーヴァ ディレクター)

【China／中華人民共和国】 5 名

中国上海国際芸術祭／国際舞台芸術見本市

ZHAO Ying (中国上海国際芸術祭アシスタント・ディレクター／SAVPH)

LIU Baijian (中国上海国際芸術祭センター事務局ディレクター)

CHEN Lin (中国上海国際芸術祭実行委員会通訳)

ZHU Jicheng (上海歌舞団マネージャー)

CHEN Tao (上海時空之旅文化発展有限公司マーケティング部次長)

【South Korea／韓国】 7 名

ソウル舞台芸術見本市

LEE Gyu Seog (コリア・アーツ・マネージメント・サービス会長)

WIE Jiyun (PAMS 事務局長兼プログラムマネージャー／コリア・アーツ・マネージメント・サービス)

KIM Hyun Jin (コリア・アーツ・マネージメント・サービス)

AN Jueun (コリア・アーツ・マネージメント・サービス)

CHOI Woongjip (コリア・アーツ・マネージメント・サービス テクニカル・ディレクター)

JUNG Chanmi (コリア・アーツ・マネージメント・サービス)

SEO Sunga (コリア・アーツ・マネージメント・サービス)

【Australia／オーストラリア】 5 名

パフォーマンス・オーストラリア

Sue SPENCE (オーストラリアカウンスルフォーシアーツ アクティング・マネージャー プロジェクト・コーディネーター)

Tony Jay RIGGIO (スペアパーツ・パペットシアター、UNIMA2008 エグゼクティブ・プロデューサー)

Rosemary Isabel HINDE (ヒラノ・プロダクションズ ディレクター)

Tony MACK (ローダウン・ユース・アーツ・マガジン編集者権副社長／カークルー・ユース・アーツ)

David YOUNG (作曲家／エイフィッツ芸術監督)

【Finland／フィンランド】 3 名

フィンランド・ダンス情報センター

Sanna REKOLA (フィンランド・ダンス情報センター ディレクター)

Pirjetta MULARI (フィンランド・ダンス情報センター 国際部プロジェクト・マネージャー)

Kim MAENPAA (フィンランド・ダンス情報センター)

【Mongolia／モンゴル】 2名

アーツ・カウンシル・オブ・モンゴリア

Rebekah PLUECKHAHN（アーツ・カウンシル・オブ・モンゴリア）

Tsevegjav ENKHCHIMEG（アーツ・カウンシル・オブ・モンゴリア）

【U.S.A.／アメリカ】 2名

Art International Corp Performing Art

Silard SOMORJAY（Art International Corp Performing Art コンサート・ピアニスト）

KAWAMURA Momomi（Art International Corp Performing Art）

【Greece／ギリシャ】 4名

ギリシャ文化機構

Georgia ILIOPOULOU（ギリシャ文化機構マネージング・ディレクター）

Yiannis KOLOTOURAS（ギリシャ文化機構プロジェクト・マネージャー）

Konstantinos TSIMAS（ギリシャ文化機構理事長特別顧問）

Anastasios NIKAKIS（ギリシャ文化機構）

【Israel／イスラエル】 2名

クラカトゥクの「くるみ割り人形」－Promarket

Hila ROM（プロマーケット・グループ事業開発部ディレクター）

Uri ROM（プロマーケット・グループ）

◆ヴィジュアル・プレゼンテーション参加者 計4名

* 下記4名はブース・プレゼンテーションにも参加

【Italy／イタリア】 2名

コンパーニア・オブラス

Luca BRUNI（オブラス・テアトローラ・テラ・ノーヴァ共同ディレクター）

Mario FERRARI（オブラス・テアトローラ・テラ・ノーヴァディレクター）

【U.S.A.／アメリカ】 2名

Art International Corp Performing Art

Silard SOMORJAY（Art International Corp Performing Art コンサート・ピアニスト）

KAWAMURA Momomi（Art International Corp Performing Art）

◆インターナショナル・ショーケース 2007 参加者 計14名

【South Korea／韓国】

エスン・ダンス・カンパニー

AHN Ae Soon（エスン・ダンス・カンパニー代表）

CHO Hwa Yeon（エスン・ダンス・カンパニーカンパニー・マネージャー）

AN Young Jun / BAE Ji Sun / CHOI Hye Kyung / HAN Sang Ruly / HWANG Soo Hyun /

KIM Min Kyoung / KIM Myeung Shin / LIM Jee Ae / PARK So Jung / SONG Ju Eun /

YANG Seung Min（上記11名エスン・ダンス・カンパニードンサー）

LEE In Yeon（エスン・ダンス・カンパニータクニカル・ディレクター）

04. ブース・プレゼンテーション

6日【火】～8日【木】 13:00-16:00／東京国際フォーラム ホール B7-2

■概要■

今年のブース・プレゼンテーションでは、参加団体を国内外の公共ホール・劇場、財団、フェスティバル、見本市、製作会社、舞台芸術関連企業などに限って募集。計 34 団体（39 ブース）が参加し、資料や映像を使って来場者へ活動のアピール、作品の紹介を行った。



■出展団体■ 計 34 団体／39 ブース

<フェスティバル／見本市> 3 団体／3 ブース

現代詩フェスティバル 2007
大道芸ワールドカップ in 静岡
東京国際芸術祭



<劇場／ホール> 2 団体／2 ブース

世田谷パブリックシアター
山口情報芸術センター

<制作会社／エージェント> 10 団体／11 ブース

アートウィル／アーティスト BOX
児雷也
ステーション
Dance and Media Japan
パタフライ・ストローク・株式会社
precog
舞太鼓あすか組
ミホプロジェクト／茂山あきら国際プロジェクト
RAKUDO
和太鼓企画・派遣のスペシャリスト J-DRUM



<舞台芸術関連団体> 5 団体／7 ブース

NPO 法人アートネットワーク・ジャパン
インフォメーションクリエイティブ
CLA・アンフィニ・プロジェクト
NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network
ポスターハリス・カンパニー



<海外団体> 11 団体／13 ブース

アーツ・カウンシル・オブ・モンゴリア（モンゴル）
Art International Corp Performing Art（アメリカ）
ギリシャ文化機構（ギリシャ）
クラカトウクの『くるみ割り人形』－ Promarket（イスラエル）
ケベック・オン・ステージ ― シナール（カナダ）
コンパーニア・オプラス（イタリア）
中国上海国際芸術祭／国際舞台芸術見本市（中華人民共和国）
ソウル舞台芸術見本市（韓国）
パフォーマンス・オーストラリア（オーストラリア）
フィンランド・ダンス情報センター（フィンランド）
ブリティッシュ・カウンシル（英国）

<主催団体> 3 団体／3 ブース

国際交流基金
財団法人 地域創造
国際舞台芸術交流センター



■総括■

例年、ブースのオープン時間（3日間×3時間程度）が長く連日時間を割くことが難しい、或いはブースが十分に活用できず思った成果が得られなかったといったアーティスト集団やカンパニーからの声があったため、今年は思い切って募集団体を統括団体のみに絞り込み、カンパニーやアーティストにはヴィジュアル・プレゼンテーションや TPAM フリンジへの参加を促した。

また、ブース・エリアの奥にヴィジュアル・プレゼンテーション・エリアを設け、時間帯を重ねることによって、ヴィジュアル・プレゼンテーション会場へ出入りする来場者が自然とブースを見て回れるような導線をつくった。その結果、双方のプログラムで人の循環が起こり、ブース・エリア中央のミーティング・スペースに設置したテーブルでは、常時、活発なコミュニケーションが行われていた。

今年は、会場面積の問題からブースとミーティング・スペースの配置を数種類検討し、それぞれに一長一短あるように思われたが、最終的にブースを会場の左右2列に設置し、その間にミーティング・エリアを置いたことでどのブースからも比較的均等な位置にミーティング・テーブルが来ることになり、結果的に、隣り合わせた人同士が気軽に話を始められるような、人の「溜まり」としての機能を十二分に発揮できた会場構成となった。



05. ヴィジュアル・プレゼンテーション

■概要■

これまでの見本市ではアーティストやカンパニーが団体として見本市に参加するにはブース出展をするしかなかったが、例年、「参加費が高い」「拘束時間（ブースを開けておく時間）が長く、スタッフをブースに常駐させておくことが難しい」などの理由から、参加を見合わせる団体も少なくなかった。そこで、もう少し参加者の負担を軽くし、効率よくアピールできる方法はないかと検討し、本年度より新たにヴィジュアル・プレゼンテーションプログラムを創設することとした。

1 日目をダンス、2 日目を演劇、3 日目を音楽・複合というジャンル分けをし、1 ジャンルにつき約 10 団体程度のアーティストやカンパニーが各々約 15 分程度（入れ替え時間を含む）の持ち時間のなかで、映像を見せながら作品についての具体的なプレゼンテーションを行った。

■参加団体■

<ダンス> 6 日 [火] 13:15~16:00/東京国際フォーラム ホール B7-2

イデビアン・クルー
川野真子（ナチュラルダンステアトル）
ダンスカンパニーノマド〜s
Dance Company BABY-Q
ニブロール
マドモアゼル・シネマ
珍しいキノコ舞踊団
Monochrome Circus
レニ・バツソ
ジャン＝バティスト・アンドレ +
ポール＝アンドレ・フォルティエ 計 10 団体



<演劇> 7 日 [水] 13:15~16:00/東京国際フォーラム ホール B7-2

うずめ劇場
チェルフィッチュ
劇団東京乾電池
トリのマーク（通称）
蜻蛉玉
中野成樹＋フランケンズ
庭劇団ベニノ
花組芝居
指輪ホテル
ヨーロッパ企画 計 10 団体



<音楽・複合ジャンル> 8日【木】13:15~16:00/東京国際フォーラム ホール B7-2

crack head

コンパーニア・オプラス（イタリア）

時間旅行楽団

ZIPANG

シラード・ソモジャイ（アメリカ）

ストリングラフィ

般若帝國

富士山アネット

もび

計 9 団体



■総括■

参加団体はブース・プレゼンテーションと同様、一般から広く公募した。新設のプログラムということもあり、内容についての問い合わせなどには丁寧に対応・説明をした結果、現在活躍の目覚ましい魅力的なアーティストやカンパニーの参加を得ることができた。

参加が決まった団体に対しては、事務局スタッフがカンパニーの担当者と事前に詳細な打ち合わせをしつつ、プレゼンテーションの内容を固めていった。その際、売買の場である見本市において単にカンパニーの紹介だけで終わってしまわないよう、事務局で作成したフォーマットに従って売りたい作品についての紙資料を作成してもらい、作品を上演するための具体的なスペック、たとえば、舞台の大きさ、技術的な条件、費用、時期などをオープンにすることを心がけた。当日は日英同時通訳システムを導入したが、ターゲットを海外のプレゼンターに絞り込んでいるカンパニーには、英語でプレゼンテーションする団体もあった。

また、プレゼンテーションの前後に、ランチ・ミーティングなどを利用して、参加者同士がダイレクトにコミュニケーションできる時間を設け、事務局スタッフが積極的に介入しアーティストとプレゼンターのマッチングを図ったが、充分とはいえなかった。次回は、さらにきめ細かく「マッチング」を強化していきたい。

ヴィジュアル・プレゼンテーションに参加するアーティストのメリットとしては、①ブース・プレゼンテーションよりも参加費が安い、②拘束期間が1日でよい、③実演以外の方法で舞台作品を紹介する手段として、視覚・聴覚をフルに使ってプレゼンテーションできる、④一度に100人ほどのプレゼンターを相手にできる、などがあった。一方、内外のプレゼンターからは、一度に多くのアーティストの作品を見ることができ、さらにその作品を実際に上演する場合の実際的な数字などがわかり、充実したプログラムだったという感想が多く聞かれた。

また、プレゼンテーションの本番直前まで紙資料の準備ができていないカンパニーが予想外に多く、ぎりぎりまで資料作成作業に追われないよう、なんらかの対策が必要だと感じた。さらに、今回はジャンルを分けてプレゼンテーションを行ったが、すべてのプレゼンターが連日参加できるよう、1日の中にダンス・演劇・音楽を入れ込む方向も検討したい。

06. TPAM フリンジ

■概要■

催事開催前後の3月3日（土）～11日（日）の期間に、東京エリアで行われる本公演や、スタジオなどで実施される特別公演を対象に募集。計13団体が参加した。

■参加団体■ ※二重カギ括弧内は公演タイトル

●ダンス／パフォーマンス [7 団体]

- ①吾妻橋ダンスクロッシング実行委員会
『吾妻橋ダンスクロッシング「The Very Best of AZUMABASHI」』
- ②BATIK『ペンダトイヴ』（海外プレゼンターのみ対象）
- ③Kota Yamazaki Fluid hug-hug co.『Rise:Rose』
- ④大駱駝艦『壺中天公演・村松卓矢「どぶ」』
- ⑤ダグダ・ダンス・カンパニー + Dance and Media Japan『マムシュカ 東京』
- ⑥ダンスルネッサンス「千の風になって」上演委員会／RAKUDO
『ダンスルネッサンスミュージカル「千の風になって」』
- ⑦ニブロール『no direction。』

●演劇 [4 団体]

- ⑧ウラダイコク『シャバダバギャラクシー』
- ⑨劇団解体社『Reflection 連鎖系：「要塞」にて』
- ⑩極楽歌劇団『人情活劇ミュージカル「蝶子と吉治郎の家」』
- ⑪R+～ラクエンオウ・プラス～『R+アンプラグド Vol.1「マーガレット、ほか5篇（短編集）」』

●音楽／複合ジャンル [2 団体]

- ⑫ARIGA 10 MUSIC『ZIPANG with アフリカの演奏家達』
- ⑬Dance and Media Japan + 山口情報芸術センター
『舞台芸術で利用するデジタルテクノロジー・ワークショップ』

■実施内容■

ウェブやチラシで公演情報を告知するとともに来場ビジターを対象に事務局が予約代行を行ない紹介した。TPAM 開催期間以前に公演を行なう団体はメールなどで参加者に告知し、事前予約を受けた。また、期間以降の団体は TPAM 会場の総合受付にプリンジデスクを設け予約を受けた。

予約にあたっては事前に参加団体に、招待、割引、一般料金の枠を設定して頂き、招待、割引については、対象となるカテゴリーをお知らせ頂いた。カテゴリーは海外参加者を、①プレゼンター、②アーティストに、国内を、①劇場・ホール関係者、②各種助成団体等、③制作会社・エージェント、④プレス・批評家、⑤学生、⑥その他、とした。事務局から特定の個人への案内はせず、そのアプローチはあらかじめ渡したコンタクトリストで参加団体自身で行なった。予約者についての団体への連絡は、参加団体から設定された締め切り日に、予約者一覧をファックスし、電話にて確認するなどした。

■総括■

去年は公演情報の告知のみだったが、今年は予約受付を事務局が代行。インターナショナル・ショーケースはコマ数に限りがあること、また 3 月に公演を実施する団体が多いことなどから、今後ショーケースと並ぶプログラムにすることを目的とした。この方法は海外の見本市ではやり方こそ異なるが一般的なプログラムで、例えば、世界最大規模の舞台芸術の見本市であるニューヨークの APAP (Association of Performing Arts Presenters) ではブース出展団体が近隣の会場やスタジオでショーイングを実施し、それをもってショーケースとしている。実に延べ 1,000 前後の数があり盛況である。都市の規模や交通の便などが東京とは大きく異なるが、大都市の特性を生かしたやり方であろう。APAP は大規模なため、事務局での予約代行などは一切なされず、全て各参加団体自身がブースで管理するが、TPAM の場合は数が少ないので、認知を高めるためにも予約代行を事務局業務とした。

参加団体の目的はその公演の次年度以降の実施と、活動自体の紹介・認知に別れる。参加形式は公演の他、スタジオでのショーイング、フリーイベント、ワークショップなどがあった。

3 月 4 日以前に実施される公演についてのみ、事前に事務局から登録ビジターにメールで連絡するなどしたが、告知期間が短いことや、遠方参加者の多くは TPAM 初日 (5 日) からしか参加しない場合が多く、また国内は当日に登録する人が多いので、3 月 4 日以前と 5 日以降の団体では不利有利が出てしまった。また、予約の受付方法や、会場までの案内方法などに課題が残った。しかし、30 名を越すプレゼンターが参加した公演も複数あり、大きな可能性を残して今後に繋がるものとなった。

参加目的を団体と事務局が共有し、目的に合った参加内容を案内していくとともに、告知期間の延長や予約などのオペレーションの精査にあたっては、参加団体数とのバランスを鑑みつつ行なう必要がある。

07. セミナー

■概要■

財団法人 地域創造主催（共催：社団法人 全国公立文化施設協会）のセミナー1本、国際交流基金主催の各国の舞台芸術を紹介するレクチャー2本をはじめ、計9本のセミナーを実施した。

テーマの選定は、舞台芸術創造の現場においてアクチュアルな話題をとりあげることとし、舞台芸術関係者がすぐに現場で活用できるよう実践的かつ具体的な内容を心がけ、各スピーカー、モデレーター諸氏との打ち合わせを行いつつ内容の充実を図った。



■実施内容■

◆国際交流基金レクチャーシリーズ メキシコの舞台芸術事情

6日〔火〕10:00～11:30／東京国際フォーラム G508

言語：スペイン語／日本語逐次通訳

スピーカー：ホセ・ルイス・クルス・アントニオ〔オジンカン国際文化祭総合ディレクター／メキシコ市トラルパン区文化局長〕
ホセ・ルイス・パレデス・パチョ〔カサ・デル・ラゴ文化センター総合ディレクター〕

2007年はメキシコ移住110周年にあたり、両国の交流がますます盛んになることが期待され、メキシコと日本の文化交流・相互理解の促進を図るため、メキシコの舞台芸術関係者を招聘し、同地の舞台芸術事情についてのレクチャーを行った。

レクチャーでは、メキシコの舞台芸術の歴史が詳細に語られ、メキシコの舞台芸術とは「移民文化からの発展」であること、また、メキシコには多数の言語（約70）があり、それは方言ではなく言語であること、それゆえ地域や国の文化を後世に伝えるための活動に重点を置いている旨の説明がなされた。

◆地域を越えてつながる・ひろがるネットワーク

6日〔火〕19:00～21:30／東京国際フォーラム G502

言語：日本語のみ

第1部「よくわかる海外作品招聘の仕組み」

スピーカー：相馬千秋〔NPO法人アートネットワーク・ジャパン／東京国際芸術祭 国際プログラム担当〕

第1部では、これまで海外作品の招聘から国際共同製作まで豊富な経験を持つ相馬千秋氏を講師に迎え、海外作品を招聘するまでのプロセスを時系列に沿って解説した。

海外作品を招聘する場合、前提として、なぜこの作品をこのタイミング、この枠組みのなかでやるのかというモチベーションをはっきりさせることが重要で、そのことが招聘事業の成功と継続につながる。そしてこのモチベーションが組織内においても共有されていることが大事であると説明された。続いて、招聘実現までの各段階のポイントをそれぞれ挙げて解説した。

まず、作品選びの際のポイントは、①国内の劇場や在日大使館とパートナーシップを構築し、人脈づく

りをする、②世界の舞台芸術シーンにアンテナを張り、ウェブサイトなどで情報をチェックする、の2点を普段から行うことである。さらに進んで、招聘したい作品の方向性が決まったら、映像資料やテキストを収集し、フェスティバルや見本市など短期間に多くの作品を観ることが可能な機会を利用し、現地に作品を観に行くことが望ましい。実際に実現が可能かどうかを探る次の段階では、助成金・協賛金の申請とカンパニーとの交渉に進む。予算については、単独か複数館での招聘かを決定し、それに従い、文化庁や国際交流基金、地域創造などへ助成金を申請。それとともにカンパニー側にも現地での助成金申請を依頼し、渡航費や運送費などをカバーできるようにする。一方、カンパニーとは細部を詰めてゆく。公演に関する基本的な事柄を整理し、クリアにする際、誰が交渉相手であるかを明確にする。

こうして、予算と技術面を検討して、実現可能か決断する。ここで、当初のモチベーションの部分に立ち返り、なぜ、このタイミングで、この作品を上演するのかをもう一度、考える必要がある。最終判断として実現することとなれば、招聘に向けてそれぞれの部門にわかれ実務を行ってゆくこととなる。

招聘実現までの流れが具体的に非常にわかりやすく解説され、招聘事業を経験していない参加者にとっても、海外作品を招聘することがこれまで以上に身近に感じられるものとなった。

第2部「ネットワークによる招聘事業の可能性」

スピーカー：岸 正人 [山口情報芸術センター シアターディレクター]

近藤恭代 [金沢 21 世紀美術館 チーフプログラム・コーディネーター]

澤藤 歩 [北九州芸術劇場 舞台事業課制作係]

第2部では、昨年、ソウル舞台芸術見本市（以下、PAMS と表記）に参加した3名の公立文化施設の自主事業担当者をスピーカーとして迎え、PAMSに参加しての印象や海外・国内を問わず複数館での招聘実現のために、ネットワークをどのように形成してゆくかを考える場となった。

まず、PAMSに参加した3名が各施設の紹介及びその施設のミッションのもとに行っている海外、国内作品の招聘事例を挙げた。その後、PAMSの印象に触れ、PAMSに参加したことでのどのようなメリットがあったかをそれぞれ述べた。

3名に共通した意見は、同じ立場の人が集まり、同じものを観ることが非常に重要な機会であったということであった。というのも、特に海外に行くと、ほぼ1日中行動を共にするので、普段話せないようなことも話し、その中から信頼関係が生まれ、共通して招聘したい作品に出会った場合、すぐに共同で招聘しようという話になる。例えば、PAMSではストリートダンスのショーケースを観て、是非、共同で招聘したいという話となった。こうしたケースのように、各地域の個性のある施設の担当者が出会うことで、人的交流から共同招聘や共同制作などに発展し、ネットワークが生まれるということもある。地域間のネットワークづくりには、立場を同じくする人との交流は欠かせない、そして、そこから具体的な事業の交流が始まるということが指摘された。

◆国際交流基金レクチャーシリーズ ブラジルの舞台芸術事情

7日 [水] 10:00~11:30 / 東京国際フォーラム G508

言語：ポルトガル語 / 日本語逐次通訳

スピーカー：マルコス・マントゥアン [ブラジル銀行文化センター総合ディレクター]

エリアネ・パレイラス [ウジミナス製鉄ウジクルツラ文化センター所長]

ジョエル・ナイマイエル・パドウラ [セスキ・サンパウロ商業連盟社会サービス専務取締役]

2008年は日伯交流年：ブラジル移住100周年を迎え、両国の交流がますます盛んになることが期待され、ブラジルと日本の文化交流・相互理解の促進を図るため、今回シリーズの一環として、ブラジルの舞台芸術関係者を招聘し、ブラジルの舞台芸術事情についてのレクチャーを行った。

マントゥアン氏、パレイラス氏からは企業が積極的に文化事業に投資しているとの説明があり、またブラジル銀行文化センターは、教育啓蒙プログラムの一環として、あらゆる社会階層、あらゆる年代層の観客が文化芸術に触れる機会を提供するため、バスを循環させるとともに、合わせて給食配給を行っているなど、他国においても参考になると思われる示唆にとんだレクチャーであった。

また、パドゥラ氏からは、ブラジルで行われた大野一雄氏の舞踏や維新派の公演などの様子が映像で紹介され、日本の公演がブラジルにおいて積極的に受け入れられている旨の説明があった。

◆もう一度考える、ワークショップでできること

7日【水】10:00～12:00／東京国際フォーラム G502

言語：日本語のみ

スピーカー： 詩森ろば【劇作家・演出家・風琴工房主宰】

山内健司【俳優・劇団青年団所属】

モデレーター：吉野さつき【ワークショップ・コーディネーター】

ワークショップ経験が豊富なアーティスト、ワークショップ・コーディネーターとともに、どのようにワークショップを企画・実施すれば成功するのか、そしてワークショップの持つ可能性について考える場とする（以下、ワークショップをWSと表記する）。

まず、様々なWSを映像によって紹介後、詩森氏、山内氏にこれまで経験してきた幾つかの事例を挙げてもらった。その後、詩森氏、山内氏の事例を踏まえて、アーティスト、ワークショップ・コーディネーターの立場から、劇場や企業などの主催者がWSをどのように進めれば成功するのか説明された。

0. WSの目的を明確にする

主催者がアーティストにWSを依頼するにあたって、そのWSには目的があり、その目的がその施設のミッションと結びついていることが理想的である。目的が明確であれば、依頼するアーティストがどのような作品を創っているのかを知った上で、その目的に合うアーティストを選ぶことが可能である。

1. 企画 アーティストにWSの対象と目的を伝え、成功イメージを共有する

2. 準備 WSの進め方をアーティストとともに考えていく

募集告知（チラシなど）であれば作成前、応募状況であればその経過をアーティストに伝える。例えば、応募者が少ない場合は内容の変更をアーティストとともに検討できることもある。主催者とアーティストがともにひとつのWSを創っているという意識が必要である。

3. 現場 WSにともに参加し観察する

①参加者の意識の変化が、参加している時の姿勢・様子にどう表れているかを観察することが重要。例えば、グループワークに参加することに気後れしている人の場合、「輪のなかから少し後ろに座っている」などの変化を見ることができる。こうした小さな変化も観察し、ワークショップリーダーに伝えることが重要。

②現場での事故や問題が発生した場合、その流れを最初から見ていないと対応方法がわからない。

このような点から、一貫してWSに参加し、観察することが大切である。

4. 評価 WSを評価し、この経験をフィードバック

最終的にそのWSが成功したかどうかを判断でき、WSという参加人数が多くはない経験を発展させていくことができるのは主催者のみである。長期的な視点での評価とひとつひとつのWSの評価を結びつけることで、その施設に必要なことが見えてくることになる。

現在、観客の育成や技術の向上など様々な目的により WS が実施されているが、WS は同時に、地元の舞台芸術活動に貢献する人材を育成する場でもある。例えば、アーティストとして自分が大切に思っていることを他の人に伝えることができれば、誰でもワークショップリーダーになることが可能で、オリジナルの WS を創ることができる。ワークショップリーダーを育成することで、その人材が WS を行うようになるし、アーティストとして作品を創ることで、地元の舞台芸術活動に貢献できる。

その地域に住み、活動に長く関わっていくことは、地元のワークショップリーダーや舞台芸術関係者にしかできないことである。こうした形で地域の舞台芸術活動を活性化することができるという WS のもう一つの可能性を提示した。また、アーティストが自らの手法を基にした WS をいろいろな人を対象にして行うことで、価値観やコンテキストの違う相手に伝える言葉や手法を持つことになる。

このように WS はアーティストが一方向的に何かを伝えるものではなく、アーティストと参加者が相互に学び、得るものがあるということを再確認することができた（日本語のみ）。

◆財団法人地域創造主催セミナー

公立文化施設における政策評価のあり方を考えるー使命・役割の再確認に向けて

7 日 [水] 19:00~21:00 / 東京国際フォーラム G502

共催：社団法人 全国公立文化施設協会

言語：日本語のみ

コーディネーター：吉本光宏 [株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室長]

パネリスト（五十音順）：小幡 誠 [魚沼市文化振興課長]

中川幾郎 [帝塚山大学大学院法政策研究科教授]

平田オリザ [劇作家・演出家・キラリ☆ふじみ芸術監督・大阪大学教授]

昨今、指定管理者制度の本格的な実施などにあわせ、公立文化施設の運営についても事業評価を導入し、経済性・効率性の観点から数値での評価を行う自治体も多くなってきている。しかしながら、芸術文化の分野においては、芸術や文化が市民一人一人の生活や生き方に及ぼす効果など、数値だけによる評価にはなじまない部分も多く、施設の使命や設置目的などを視野に入れた総合的な政策評価の手法を検討することが喫緊の課題となっている。こうした状況を踏まえ、現在地域創造では、「公立文化施設における政策評価のあり方」をテーマにした調査研究事業に取り組んでいる。

今回のセミナーでは、この調査研究事業にご協力をいただいている各分野の専門家をお招きし、施設の使命の明確化など政策評価を実施するうえでの前提条件をはじめ、評価の具体的な手法や評価を導入するにあたっての留意点などについて議論をしていただき、このセミナーに参加された公立文化施設の関係者などが各施設の特性に見合った評価のあり方を考える契機としていただくことを目的とした。

パネリストの中川さんには、指定管理者の選定において経費の削減など効率性だけが重視されている現状を指摘し、公共ホールの本来担うべき人を育てる（投資）という公共的使命・役割を重視した政策評価の必要性を提唱していただいた。

平田さんには、短期的な経済的効果と中期的な人材育成の効果など数字で表せる評価と表せない評価をきちんと区別して考える必要性やホール運営の基本として創造型事業（ものを作ることによるホールの活性化）の重要性などを指摘していただいた。

小幡さんには、小出郷文化会館で行った評価事例などをもとに、ホールの役割の再確認や市の文化ビジョンへの反映など、評価結果の活用法に関する具体的な報告をしていただいた。

最後に、コーディネーターの吉本さんから、政策評価は、評価を行うこと自体が目的ではなく、評価を通して施設の使命や役割の再確認を行ったり、事業運営面での問題点や課題を把握する際の指標となるなど、公立文化施設を適切に運営するうえで重要な役割を担うものであるという認識のもと、ぜひ前向きに評価に取り組んでほしいというエールをいただき、セミナーを締めくくった。

◆電子媒体による新しい広報・宣伝スタイルの提案

8 日 [木] 10:00~12:00 / 東京国際フォーラム G510

言語：日本語のみ

スピーカー：松月虎次郎 [こりっち株式会社 代表取締役]

インターネットやメールなどを利用した電子媒体による広報・宣伝が増加している現在、改めて電子媒体の特性を考え、舞台芸術の分野でどのように活用できるかを考えるセミナーである。

まず、日本の広告市場について現況に触れ、今までの広報・宣伝の方法、そして新しい電子媒体を利用した広報・宣伝と展開した。

2007 年現在、広告市場で最も割合を占めているのはテレビで、広告費全体の約 3 分の 1 となっている。しかし、インターネット広告は前年比 129.3%と、ほかの媒体が減少傾向にあるなか、伸び率が著しい。それを裏付けるように、人口の 57.8%がインターネットを利用しており、自宅での利用者のほとんどがブロードバンド対応で、大容量のデータを送受信可能な環境にいることがわかる。また、携帯電話の利用者のほとんどがネット接続可能な機種を使用し、携帯サイトの広告費が広告市場のなかではまだまだ少ないものの、前年比の 135%と今後も伸び続けることが予想される。

こうした現状のなかで、これまでの広報・宣伝として利用してきた紙媒体とホームページやメールマガジンなどの電子媒体、それぞれの方法と特徴に触れられ、さらに電子媒体の最新の状況である、1. ブログの構築、2. 最新ニュースの RSS 配信、3. 検索連動広告、4. 携帯電話対応のホームページ、5. モバイル広告、の 5 つの傾向が説明された。これら最新の電子媒体を活用している具体的な事例として、2 つの劇場と 1 つの芸術団体のホームページを取り上げ、客席図や舞台平面図、照明・音響設備の情報がダウンロード可能、携帯サイトや RSS 配信への対応、写真や動画、公演実績情報が閲覧できることなど、利用者のニーズに応える広報・宣伝方法を紹介。また、舞台芸術のポータルサイト「CoRich 舞台芸術！」を運営の際に、ホームページ訪問者増加の工夫や、今後、舞台芸術データベースの構築やより多くの人々へのアプローチを通して舞台芸術業界の活性化に貢献することに触れられた。

電子媒体の特性から考えて、広報・宣伝に利用する意味は、多くの人々に情報を公開し、これまで舞台芸術に興味を持たなかった人々にまで情報を伝達できることである。現在のインターネット利用者数を考えると、その手段として、ホームページ開設、メールマガジンの発行は必須であり、できれば携帯サイトへの対応したホームページが望ましい。電子媒体で伝える情報としては、図、写真、動画などを使用してわかりやすく表示することが重要で、その際、ユーザーの意見を聞く窓口を持ち、適宜、修正し、よりわかりやすいものにしてゆく。また、ホームページを閲覧した人が一度ではなく何度も訪れるようにブログを開設するなどして、1 つのコミュニティを形成してゆくことが良い。つまり、複数の電子媒体を上手く組み合わせて、相乗的な効果を生むように活用すべきである。繰り返しになるが、電子媒体を使うのであれば、どの電子媒体においても、利用者が使い易く、欲しい情報をすぐに得ることができるということを念頭に置くことを指摘した（日本語のみ）。

◆韓国における舞台芸術のいま

8 日 [木] 10:00~12:00 / 東京国際フォーラム G502

言語：日本語・韓国語・英語同時通訳

スピーカー：イ・スンヨプ [ウィジョン音楽演劇祭芸術監督]

イ・インゴン [ソリ文化の殿堂 CEO]

チョ・ソクジョン [デジョン文化芸術センターディレクター]

モデレーター：曾田修二 (跡見女子学園大学マネジメント学部教授)

このセミナーは 2006 年より東京芸術見本市と提携関係を結んでいる「ソウル舞台芸術見本市(PAMS)」との交換プログラムのひとつとして実施。相互理解を深めるとともに、具体的な交流の一助を目指すものである。

まずイ・スンヨプ氏が過去 10 年の韓国における舞台芸術の現状を、経済的政治的背景の変遷とともに具体的な数値なども提示しつつ、韓国内で舞台芸術が社会的なものであると認知されるようになったこと、国や地方自治体の取り組みやハードとソフトのバランスについてなどを説明。韓国の舞台芸術の 4 つのトレンドとして、①市場の拡大、②市場拡大を促すための大型公共施設増設、③両極化の減少-大型で華麗な公演の拡大、④「韓流」の世界的流行を背景にグローバリゼーションとローカライゼーションが結合した「グローカライゼーション」の到来を提示。また、韓国内各地で実施されているフェスティバルのうち 12 の主要な国際的フェスティバルについてそれぞれ映像とともに紹介され、連絡先などの資料も用意された。

つづいてイ・イングォン氏は、独創的な公共施設の例として「ソリ文化の殿堂」を紹介。この施設は 100% 民間に委託運営され、多様なプログラムを展開。国際交流にも力を入れており、9 月から 10 月にかけて実施される「ソリ・フェスティバル」はパンソリを中心に世界各地からアーティストも招く意欲的な催事であると説明された。

最後にチョ・ソクジョン氏がデジョン広域市に所属する複合施設である、「デジョン文化芸術センター」について紹介。施設については、野外劇場を含む、席数・使用目的の異なる 4 つのホールについて映像を交え紹介され、年間 80 件、170 回の自主公演を行なっていると説明された。特に季節毎に年 4 回行なわれるフェスティバルは韓国でも稀有な存在であるとのことで、それぞれ異なる目的や目標を設置し、2006 年には観客数が前年比の 140%とのことである。

セミナーの最後にモデレーターから、劇場に所属する劇団について質問がなされた。劇場所属の劇団が多く、芸術団体の組合もあり、舞台芸術家は身分が保証されているとのこと。むしろ劇場・施設の負担が近年問題視され、独立を促す動きがあると話され、日本との違いも実感された。



協力：コリア・アーツ・マネージメント・サービス（KAMS）
ソウル舞台芸術見本市（PAMS）

◆オーストラリア：現代音楽への新しいアプローチ

8 日 [木] 11:00~12:00 / 東京国際フォーラム ホール D1

言語：英語 / 日本語逐次通訳

スピーカー：デヴィッド・ヤング [作曲家 / エイフィッツ芸術監督 / ニューミュージックネットワーク副代表]

モデレーター：スー・スペンス [オーストラリアカウンスルフォーシアーツ アクティング・マネージャー]

オーストラリアの現代音楽を牽引する ニューミュージックネットワークの副代表、デヴィッド・ヤング氏が、同地の現代音楽シーンを、映像を交えて紹介した。

シドニーを中心に多くのニューミュージック系音楽グループがその設立に協力している、「ニューミュージックネットワーク」は、パーカッションカルテットのシナジーや、クラシック分野ではオフスプリング、ジャズ・ポピュラー系のデイヴィッド・チェスワース・アンサンブルなど、国内でも主要なアーティストが加盟する組織で、シドニー・オペラハウスやコンセルバトワール・オブ・ミュージックなど様々な会場でのコンサートを企画・プロデュースしている。その他にもシドニー即興音楽協会などがアーティストの活動をサポートしている。

音楽分野はシドニーを中心に活発であるが、移民の国であるオーストラリアは多元的な文化を内包する国。地域性が強く、これはニューミュージックの分野にも反映されており、各地域によって音楽のアプローチが大きく異なっている。各地には代表的なニューミュージックのフェスティバルがあり、中でもウェスト・オーストラリア州の「本当に大きいニューミュージック・フェスティバル」、「クイーンズランド・ビエンナーレ音楽祭」「リキッド・アーキテクチャー」「ナウ・ナウ・フェスティバル」などが有名。

ヤング氏の所属するクロスアートフォームカンパニー「エイフィッツ」は「ライス・フィールズ (Ricefields)」プロジェクトをたちあげ、作曲家としてのヤング氏自身が、2人のヴィジュアル・アーティストと、4人のミュージシャンにサウンド、照明デザイナーなど、日本のアーティストとのコラボレーションを行っている。メルボルンで初演後、フランス、日本（島根、東京）、オーストラリア（ブリスベン、シドニー）で公演が行われた。また2007年5月、メルボルンのビクトリア・アーツ・センターに、パイオリニストの辺見康孝をゲスト招聘する予定。

◆チェコの舞台芸術、スペインの舞台芸術

8日[木] 15:00~16:00/東京国際フォーラム ホールD1

言語：英語/日本語逐次通訳

第1部：アルハ・シアター（チェコ共和国、プラハ）

スピーカー：オンドレイ・フラブ [アルハ・シアター エグゼクティブ・ディレクター兼芸術監督]

第1部では、1994年に設立された400席と100席ほどのスペースからなる、アルハ・シアターのエグゼクティブ・ディレクター兼芸術監督のフラブ氏が、劇場の活動や劇場制作の作品を紹介。共産主義政権下で表現を行うことの意味、またその難しさについて語るとともに、冷戦後の劇場の活動について実例を挙げてレクチャーした。

1989年の壁崩壊後、世界から隔絶されてきたことによる空白を埋めるため、アルハ・シアターは国際的なアーティストを積極的に招聘、その後、招聘公演を行うだけでは不十分であると考え、「アルハ・ラボ」を立ち上げ、リサーチや制作活動を通じて若手アーティストとともに新しいアートのあり方を模索している。すでにストリート・パフォーマー、ヒップホップ、ヴィジュアル・アーティスト、グラフィティ・アーティストなど多分野の芸術家とのコラボレーションによる作品作りを行っている。

また21世紀に入り、「アートは社会の責任を負うものである」という信念のもと、劇場を飛び出し難民キャンプでプロのアーティストと世界からの難民とともに共同でプロジェクトを行うなど、チェコを取り巻くあらたな社会問題と正面から取り組んでいる。併せて、引き続き国際的な交流という側面として、「アルハ・シアターにおける日本シーズン」を立ち上げ、モノクロームサーカス、劇団解体社などを招聘、また玉井康成とチェコ国立劇場の俳優とのコラボレーションなども行っている。



協力：チェコセンター

第2部：カスティージャ・イ・レオン国際芸術フェスティバル（スペイン、サラマンカ）

スピーカー：ギィ・マルティニ [カスティージャ・イ・レオン国際芸術フェスティバルディレクター]

第2部では、当初予定されていた、バルセロナ、ソナー・フェスティバルのディレクター、エンリク・パラウ氏の来日が急遽とやめとなったため、サラマンカのカスティージャ・イ・レオン国際芸術フェスティバルディレクター、ギィ・マルティニ氏に講演を依頼、以下のような内容のレクチャーが行われた。

歴史文化都市サラマンカで2005年に始まったカスティージャ・イ・レオン国際芸術フェスティバルは国際的レベルでの同時代的舞台芸術の発表の場を提供することを目的に、演劇、ダンス、電子音楽、グラフィティ・アートなど、様々な分野をとりあげ、今年の6月で3回目を迎える。130公演が予定され、分野をまたがる複合的な舞台フェスティバルとしてはスペイン最大級。会場は、屋内1400人収容の劇場を中心とした複数の会場と、サラマンカ広場（15,000人収容可）が予定されている。

カスティージャ・イ・レオン地方政府が予算の 95 パーセントを出資、その開催の背景には、①地方社会レベルでの強力な文化政策の施行、②伝統主義的な地域のイメージチェンジの必要性、③自然・遺産だけでなく文化を目的とした観光の強化という政策展開が挙げられる。

カスティージャ・イ・レオンは、ユネスコの世界遺産に指定される建造物を有する 250 万人の伝統的文化都市で、欧州最古の大学のひとつサラマンカ大学がある。現代アート・フェスティバルの立ち上げは、この伝統的な慣習を重んじる地域性に合わず、市民から受け入れられないのではと懸念されたものの、国内に国際的な現代芸術フェスティバルが不足しているという点や、また世界各国の留学生を含む大学の学生や市民が新しい観客層になるのではないかという期待のもと、開催に至り成功を収めている。また地域に根付いた国際フェスティバルにすべく、コミュニティの要請を取り入れたプログラム作りを行い、フェスティバルを核とした地域の住民との年間を通じた活動を企画している。

日本のアーティストとしては初めて 2007 年 6 月の開催に BATIK が参加。積極的に海外の作品をとり入れ、またエジンバラ国際フェスティバルやローマのフェスティバルなど、他地域の催事との共同制作を行う予定。



協力：スペイン大使館

本セミナーにあたってはスペイン文化省のグラシアン基金より 2006 年度の助成を受けております。

La realización de este Simposio ha sido subvencionada en 2006 por el Program "Baltasar Gracián" del Ministerio de Cultura de España"

■総括■

今年は、6 日にダンス、7 日に演劇、8 日に音楽・韓国関連と、ヴィジュアル・プレゼンテーションやショーケースのプログラムをゆるやかにカテゴリー分けした。セミナーも各日の流れにできる限り沿うように意識的にプログラムを組んだのが功を奏したのか、当初の予想を上回る集客を得た。

今回、全 9 本のセミナー中、4 本は日本国内の事情を扱ったもので日本語のみの講演だったが、「地域を越えてつながる・ひろがるネットワーク」と「公立文化施設における政策評価のあり方を考える」については、海外参加者から英語通訳を入れて欲しかったという声があった。「ネットワーク」については招聘事業をテーマにしていたことから、招聘される側である海外アーティストにとっても関心事であったと想像される。「公立文化施設～」については、純粋に国内の事情を扱ったものではあったが、海外参加者のなかには日本国内の舞台芸術事情を知りたい、国内プレゼンターが参加するセミナーを聴きたいというニーズもあることを考慮する必要があるかもしれない。

また、「メキシコ～」「ブラジル～」セミナーについては、それぞれのスピーカーが母国語で講演し日本語逐次通訳を付けたが、やはり海外参加者から英語通訳を入れて欲しかったという声があり、今後、検討すべき事項である。また、具体的なテーマを扱う聴講者参加型小規模ミーティングの実現をも今後の課題としたい。

08. インターナショナル・ショーケース 2007

主催：文化庁

企画・制作：国際舞台芸術交流センター

特別協力：丸ビル ※丸の内元気文化プロジェクト参加事業

■概要■

「インターナショナル・ショーケース」は、質の高い、トータリティを持ったプログラムを実現するためにディレクター制を導入し、今回で4回目を迎えた。今年は、昨年初めて取り上げて好評を博した音楽ショーケースも引き続きプログラムの主眼として展開、ダンス、演劇とあわせて、5コマの実演ショーケース、2コマの映像ショーケースの計7プログラムを行った。

◆2007年、ジャズの新しい展開

5日（月）18:00～20:00／丸ビルホール

ディレクター：副島輝人 [ジャズ評論家]

出演：SXQ サックスクインテット／Salle Gaveau／ヒカシュー

60年代から前衛ジャズの評論家・紹介者として活動し日本のフリージャズ界を牽引してきた副島氏をディレクターに立て、既成の「ジャズ」の枠にとらわれることなく、音響的アプローチ、タンゴ、民族音楽などさまざまなジャンルの音楽と共鳴しつつ新しい即興を模索する3グループを紹介した。それぞれの音楽性・方向性は異なるが、いまの日本のジャズの動向を象徴するラインナップとなった。



SXQ サックスクインテット



Salle Gaveau



ヒカシュー

◆映像ショーケースー

「映された」身体表現にみる戦後から現在までのアートの諸相とこれから

6日（火）10:00～11:30／東京国際フォーラム ホールD1

ディレクター：大谷能生 [音楽家・批評家] × 木村 覚 [ダンス批評・美学研究者]

紹介アーティスト：チェルフィッチュ／手塚夏子／康本雅子 他

20世紀に入って誕生した録音・録画技術によって「写される」ことが可能になった身体表現。1960年代には、書かれた作品の「再現」ではなく、現場のみで生まれる創造という行為そのものの「出来事性」が最高潮に発展する。当時のジャズや舞踏の映像を見せながら、メディアに記録された身体表現を「作品体験」として「見る」ための可能性を探り、現在の身体表現における即興・再生の問題を考察した。



左：木村覚氏／右：大谷能生氏

◆ゲイジュツなんておいていけ！「踊る身体」はストリートにあり！＋
舞踏という生き方

6日（火）16:00～18:45／東京国際フォーラム ホール B7-1

◇ゲイジュツなんておいていけ！ 「踊る身体」はストリートにあり！

ディレクター：乗越たかお〔作家・舞踊評論家〕

出演：ひとりできるもん／はむつんサーブ／ISOPP & O-HASHI

これまでショーケースでは主にコンテンポラリー・ダンスを紹介してきたが、今年は、1950年代に発祥し世界的な広がりをもつストリートダンスを初めて取り上げた。高度なテクニックを披露するだけでなく、視覚的なトリックや笑いの演出を盛り込んだり、他ジャンルのダンスを取り込むなど、オリジナルの表現、スタイルを追及する3アーティストを紹介した。



ひとりできるもん はむつんサーブ



ISOPP & O-HASHI

◇舞踏という生き方

ディレクター：溝端俊夫〔大野一雄舞踏研究所事務局長〕

出演：舞踏舎天鷲／イマージュオペラ／金沢舞踏館

1960年代に土方巽によって創出され、日本人独特の表現として欧米で高い評価を得ている「舞踏」。海外を拠点として活動する日本人舞踏家も多く、また外国人の舞踏家も現れるなか、今回は静かに深化を続ける日本の舞踏の根に光を当て、日本国内で活動を繰り広げている新旧世代の3組を紹介した。



舞踏舎天鷲



イマージュオペラ



金沢舞踏館

◆たのしい計算音楽！ JOYFUL CALCULATION！

6日（火）19:15～21:15／丸ビルホール

ディレクター：佐々木敦〔批評家〕

出演：杉本佳一／d.v.d - itoken + jimanica + ymg／PARA

20世紀末の技術革新が「表現」にもたらした最大の貢献のひとつともいうべき概念＝「計算」。1990年代以降に現れたテクノやハウスといった電子音楽のなかの一分野であるエレクトロニカのジャンルから、この「計算」という概念を踏まえつつ、音楽を楽しんでいる／楽しませる術を有したユニークな3アーティストを紹介した。



杉本佳一



d.v.d - itoken + jimanica + ymg



PARA

◆映像ショーケースー日本現代演劇の歴史性をめぐって

7日（水）10:00～11:30／東京国際フォーラム ホール D1

ディレクター：鴻 英良〔演劇批評家〕

紹介カンパニー：月蝕歌劇団／身体表現サークル／櫓組／天井棧敷／ポツドール 他

1960年代演劇の貴重な映像を見せながら、当時の前衛演劇と今日の演劇を「身振りの喪失」「現実へのレジスタンス精神」という視点で対比させ、さらにその理念を失わずに「身振りの回復」をアナーキーなエネルギーで実践しつつも、日本の演劇史のなかで排除されてきた一群の劇団を紹介。アガンベンなど現代の思想家を参照しながら、歴史的な文脈のなかで今日の演劇を検証するセミナーとなった。



鴻英良氏

◆新しい人形劇—モノ語る世界

7日(水) 16:30~18:30 / 東京国際フォーラム ホール B7-1

ディレクター：加藤暁子 [人形演劇研究家]

出演：かわせみ座 / 黒谷 都 / 百鬼どんどろ

1960年代、ヨーロッパを中心に出現したオブジェクト・シアターは、人形のみが演じてきた舞台から人形遣いと人形が共演する表現へ、さらにモノや音、光までもが俳優とともにドラマの担い手となるような表現へと人形演劇の概念を大きく変化させた。日本の伝統人形劇がもつアニミズムとも通底するオブジェクト・シアターの分野から、国内はもとより海外でも高い評価を得ているアーティストを紹介した。



かわせみ座



黒谷 都



百鬼どんどろ

◆ソウル舞台芸術見本市ショーケース

8日(木) 16:30~17:30 / 東京国際フォーラム ホール B7-1

出演：エスン・ダンス・カンパニー

東京芸術見本市と提携しショーケースアーティストの交換を行っているソウル舞台芸術見本市から、エスン・ダンス・カンパニーを招聘した。今回紹介した作品『Circle - After the Other』は、1983年の結成以降、韓国古来の文化からさまざまなテーマを拾い上げてコンテンポラリー・ダンスのフォームへと転化するエスン・ダンス・カンパニーの代表作で、韓国内外の批評家からも高い評価を得た作品である。



エスン・ダンス・カンパニー

■総括■

今回のショーケースでは、1960年以降の日本の演劇、ダンス、音楽の歴史を振り返りつつ、これからのパフォーマンス・アーツに繋げていくようなプログラムを組んだ。また、単にいま「旬」の舞台芸術を切り取って紹介するだけでなく、映像ショーケースとセットにして、過去の歴史やそれぞれのジャンルのコンテキストを十分に理解できるようなプログラミングを心がけた。

特に、ストリートダンス、人形劇、計算音楽のショーケースは海外プレゼンターの関心も高く、東京芸術見本市が2006年のソウル舞台芸術見本市でも紹介したはむつんサーブは、4月にウクライナ公演を実施、さらにd.v.d.の2008年2月ヨーロッパ・ツアー（ドイツ・フランス・メディアール他）が現在進行中である。その他、現在もメールなどでの問い合わせが断続的に続いており、すぐに具体的な公演へと結びつくケースでなくても、1年後、2年後の公演実現へと繋がる、実りあるショーケースであった。

09. レセプション／ランチ・ミーティング

■ レセプション

5 日（月） 16：00-17:30／東京国際フォーラム G7
オープニングスピーチ：（財）地域創造 林省吾理事長

東京国際フォーラム 7 階の開放的なスペースは、カジュアルな雰囲気を作れたという点、また予想を超えた参加者数が十分に収容されたという点で適当な場であった。今回、前後のプログラムを考慮し 1 時間半を設定したが、終了後も話を続ける参加者も多く、2 時間を予定してもよかったと思われる。

受け付けデスクの場所が適当でなかったことから、参加者全員を把握することができなかった。次回以降の課題である。



飲料提供：アサヒビール（持ち込み料支払い＝
帝国ホテルによるセッティング、サービスあり）

■ ランチ・ミーティング

6 日（火） 12:00～13:00／東京国際フォーラム B7-2

7 日（水） 12:00～13:00／東京国際フォーラム B7-2（ケベック州政府在日事務所主催）

8 日（木） 12:00～13:00／東京国際フォーラム B7-2

当初国内の出展者（アーティスト、カンパニー）と主に海外のプレゼンターが交流する場としてはじめてランチ・ミーティングは、ここ数年でビジターや国内のプレゼンターが積極的に参加し、多方向的に意見交換をする場として発展してきた。

今年は昨年に引き続き、ブース会場の一部にランチの場を設定し、プログラムに連続性をもたせるとともに、できるだけカジュアルな場を作ることによって参加者が緊張することなく交流を深めていけるよう工夫した。交流だけでなく、具体的な商談の場としても活用されており、次回以降も続けるべきプログラムである。

初日は、参加者も多く食事に若干の不足が出たが、最終日は、申し込み数は定員に達していたものの参加者数が少なかった。次回以降の課題としたい。また中間日はケベック州政府在日事務所主催によるランチで、参加は無料。盛況に終わった。



10. パブリシティの記録

◎国内新聞 15 紙

しんぶん赤旗（日本共産党中央委員会発行）	2/16（金）朝刊掲載
共同通信（共同通信社配信）	2/16（金）配信
秋田さきがけ（秋田魁新報社発行）	2/21（水）掲載
神奈川新聞（神奈川新聞社発行）	2/22（木）掲載
上毛新聞（群馬県・上毛新聞社発行）	2/22（木）掲載
埼玉新聞（埼玉新聞社発行）	2/23（金）掲載
情報誌キャリア・ピジョン（株式会社キャリア・ピジョン発行）	2/23（金）掲載
山陽新聞（山陽新聞社発行）	2/24（土）夕刊掲載
Shinken まちづくり新聞（新建新聞社発行）	2/25（日）掲載
東京新聞（東京新聞社発行）	3/1（木）夕刊掲載
しんぶん赤旗（日本共産党中央委員会発行）	3/3（土）朝刊掲載
読売新聞（読売新聞社発行）	3/3（土）夕刊掲載
日本経済新聞（日本経済新聞社発行）	3/5（月）朝刊掲載
読売新聞（読売新聞社発行）	3/14（水）朝刊掲載
生涯教育新聞（生涯教育通信社発行）	3/30（金）掲載

◎海外新聞 1 紙

HELSINGIN SANOMAT（フィンランドの主要紙）	4/23（月）掲載
-------------------------------	-----------

◎国内雑誌・情報誌 11 誌

シアターガイド（モーニングデスク発行）	11/2 発行・12 月号掲載
DDD dancedancedance（フラックス・パブリッシング発行）	1/1 発行・1 月号掲載
パチ 2 津軽三味線と太鼓の情報誌（邦楽ジャーナル発行）	1/28 発行・2 月号掲載
toward FORUM（東京国際フォーラム発行）	2/1 発行・3・4 月号掲載
情報誌 ぱど（株式会社ぱど発行）	2/23 発行・No.924 掲載
パチ 2 津軽三味線と太鼓の情報誌（邦楽ジャーナル発行）	2/28 発行・3 月号掲載
春ぴあ 首都圏版（ぴあ株式会社発行）	2 月末掲載
シアターガイド（モーニングデスク発行）	3/2 発行・4 月号掲載
toward FORUM（東京国際フォーラム発行）	4/1 発行・5・6 月号掲載
月刊イベント・レポート（インタークロス・コミュニケーションズ発行）	5/10 発行・Vol.297 掲載
DDD dancedancedance（フラックス・パブリッシング発行）	5/26 発行・7 月号掲載

◎国内英文雑誌 2 誌

メトロポリス（クリスクロス株式会社発行）	2/23 発行・第 674 号掲載
メトロポリス（クリスクロス株式会社発行）	3/2 発行・第 675 号掲載

◎海外雑誌 1 紙

TANSSI（フィンランドのダンス専門季刊誌）	2007 年第 2 号掲載
-------------------------	---------------

◎テレビ 2局

IPC ブラジルチャンネル「PRIMEIRA EDICAO」「JORNAL IPC」 3/7（水）放映
Korea Now TELEVISION「KOREAN NETWORK」 3/11（日）放映

◎ラジオ 1局

NHK 国際放送「Japan & the World 44 Minutes」 3/9（金）放送

◎ウェブサイト

Righteye（righteye 運営）
東京の観光 Tokyo Tourism Info（東京都運営）
CoRich ニュースクリップ！（こりっち株式会社運営）
Let's Enjoy TOKYO（東京地下鉄株式会社・株式会社 NKB 運営）
日韓文化交流カレンダー（日韓文化交流基金運営）
マガジン・ワンダーランド（ノースアイランド舎運営）
Fringe（fringe 運営）
クリエイターズ ステーション（株式会社フェローズ運営）
Australian Government in Japan（オーストラリア大使館運営）

他、参加団体ウェブサイトなどに多数掲載。

◎当日取材 11 件

3/5（月） 宝田俊幸氏（NHK 国際放送ディレクター）／山田有里子氏（キャスター）

取材内容：東京芸術見本市副事務局長 大原、ソウル舞台芸術見本市事務局長 Wie 氏、
Arts Midwest エグゼクティブ・ディレクター Fraher 氏インタビュー
媒体名：NHK 国際放送「Japan & the World 44 Minutes」

3/5（月）～3/8（木） 但馬智子氏（株式会社文化科学研究所都市文化研究部）

取材内容：アルハ・シアター芸術監督オンドレイ・フラブ氏他、海外参加者インタビュー
媒体名：国際交流基金「Performing Arts Network Japan」 他

3/6（火） 櫻井 学氏（読売新聞 文化部記者）

取材内容：インターナショナル・ショーケース「楽しい計算音楽！」コンサート評
媒体名：読売新聞

3/6（火） 前田耕作氏（生涯教育新聞 編集企画局長）

取材内容：見本市全体の取材
媒体名：生涯教育新聞

3/6（火） 西川静香氏（東京国際フォーラム広報）／岩切 等氏（写真家）／塚本優子氏（ライター）

取材内容：インターナショナル・ショーケース「舞踏・ストリートダンス」出演者、海外参加者撮影
媒体名：Toward FORUM

3/6（火） 小松飛奈太氏（月刊イベント・レポート編集者）

取材内容：見本市全体の取材
媒体名：月刊イベント・レポート

3/6（火）～3/8（木） 北嶋 孝氏（マガジン・ワンダーランド編集長）

取材内容：見本市全体の取材

媒体名：マガジン・ワンダーランド

3/6（火）～3/8（木） リシャード・スミス氏（日本外国特派員協会ジャーナリスト）

取材内容：海外からの参加者へのインタビューを中心に見本市全体の取材

媒体名：海外各紙

3/6（火）～3/8（木） アウリ・ラサネン氏（フィンランド・フリージャーナリスト）

取材内容：見本市全体の取材

媒体名：HELSINGIN SANOMAT 紙（フィンランド）

3/7（水） 玉那覇ダイアナ氏（IPC ブラジルチャンネルジャーナリスト）他カメラマン 1 名

取材内容：「ブラジルの舞台芸術事情」セミナー取材

媒体名：IPC ブラジルチャンネル「PRIMEIRA EDICAO」「JORNAL IPC」

3/8（木） 金珍華氏（Korea Now TELEVISION ジャーナリスト）他カメラマン 2 名

取材内容：「韓国における舞台芸術のいま」セミナースピーカー 3 名インタビュー、

ソウル舞台芸術見本市 イ・ギュソク氏インタビュー、エスン・ダンス・カンパニー
ショーケース取材 他

媒体名：Korea Now TELEVISION「KOREAN NETWORK」

◎その他

3/6（火）～3/8（木）

スティグ・ヤール氏（デンマーク・コペンハーゲン大学芸術文化学部准教授）

グンヒルド・ボルグリーン氏（デンマーク・コペンハーゲン大学芸術文化学部准教授）

取材内容：大学での研究を目的とした日本の舞台芸術事情と見本市全体の取材・調査

媒体名：研究報告「Contemporary Theatre and Performance in Japan」

神奈川
新 THE KANAGAWA 聞

2007年 2月16日 金曜日
日刊第20201号
発行所 日本共産党中央委員会
東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7
〒151-8586 電話 03(3403)6111
©日本共産党中央委員会2007年

神奈川新聞 2007年2月22日(木)

埼玉新聞

上毛新聞 2007年2月22日(木)

埼玉新聞 2007年2月23日(金)

「東京芸術見本市」
5-18日
演劇やダンス、音楽など、舞台芸術のマーケット。東京芸術見本市2007が五日から八日まで、東京芸術見本市2007で、東京芸術見本市2007と丸の内近辺の団体から約千人(海外約百人)が参加する。今回は約十五分間の映像を使って、作品のプレゼンテーションをする「デジタル・プレゼンテーション」を新設した。演劇、ダンス各十、音楽九の合計十九団体に参加する予定。ブリス出演やセミナー、シンポジウムも例年と同様である。四日通しパス四千円、一日パス二千円。03・5724・4660(見本市事務局)。

「東京芸術見本市」
5-18日
演劇やダンス、音楽など、舞台芸術のマーケット。東京芸術見本市2007が五日から八日まで、東京芸術見本市2007で、東京芸術見本市2007と丸の内近辺の団体から約千人(海外約百人)が参加する。今回は約十五分間の映像を使って、作品のプレゼンテーションをする「デジタル・プレゼンテーション」を新設した。演劇、ダンス各十、音楽九の合計十九団体に参加する予定。ブリス出演やセミナー、シンポジウムも例年と同様である。四日通しパス四千円、一日パス二千円。03・5724・4660(見本市事務局)。



「東京芸術見本市」
5-18日
演劇やダンス、音楽など、舞台芸術のマーケット。東京芸術見本市2007が五日から八日まで、東京芸術見本市2007で、東京芸術見本市2007と丸の内近辺の団体から約千人(海外約百人)が参加する。今回は約十五分間の映像を使って、作品のプレゼンテーションをする「デジタル・プレゼンテーション」を新設した。演劇、ダンス各十、音楽九の合計十九団体に参加する予定。ブリス出演やセミナー、シンポジウムも例年と同様である。四日通しパス四千円、一日パス二千円。03・5724・4660(見本市事務局)。

東京新聞 2007年3月1日(木)

読売新聞

2007年(平成19年)3月14日 水曜日

来月 東京 山陽新聞 2007年2月24日(土) 夕刊

「東京芸術見本市2007」で出会いました。
舞台芸術の「いま」をリードする人たち。

「東京芸術見本市2007」で出会いました。
舞台芸術の「いま」をリードする人たち。

山陽新聞 2007年2月24日(土) 夕刊

「東京芸術見本市2007」で出会いました。
舞台芸術の「いま」をリードする人たち。

「集いを歓びに」

2007年3月6日(火)



「東京芸術見本市」は、舞台芸術作品と観客とをつなぐ舞台芸術関係者とが、作品を通じて出会い、交流し、情報交換を行う場です。開催11回目を迎えた今回、「Re:Communication」をテーマに、国内外のアーティストやアートカンパニー、ホール・劇場の運営団体等が一堂に会し、さまざまなコミュニケーションが繰り広げられました。舞台芸術の原点は人と人との出会い。そんな雰囲気が会場にあふれていました。

photo:岩切 等

toward FORUM 2007年4月1日発行・5・6月号

たのしい計算音楽 / @丸ビルホール

東京・丸の内で開催された「東京芸術見本市」の「インターナショナル・ショーケース」は、様々な分野のステージが楽しめるイベントでした。6日には「たのしい計算音楽 /」と題し、デジタル技術を意識した3組のアーティストが出演しました。

杉本佳一は、モノクロの短編映画を背に、パソコンとギターを使って演奏。淡々と団地の風景が流れ、その変化に対応するように、心地よい電子音が鳴り響きました。d.v.dはドラム2人に映像作家という3人組。ドラムの音に従ってゲームのような映像が動くパフォーマンスで、人がたたくドラムのアナログ的な振動と、デジタルのクールな世界が混然一体となったユニークな世界を展開しました。

最後に登場したP.A.R.A.—撮影・宮内勝—is、ボアダムスなどで知られる山本精一もメンバーのバンド。しっかりと構築された厚手のサウンドは、プログレッシブ・ロックという言葉すら連想させます。反復音が発展していくフレーズに身を任せていると、意識が別な所に飛んで行ってしまうようでした。

デジタル イジゲンノセカイへ

読売新聞 2006年3月14日(水) 朝刊

02 TRAM 東京芸術見本市2007 EVENT INFORMATION

舞台芸術のマーケットが来春3月に開催!

アーティストと、その作品を観客に提供するプレゼンターが集まる東京芸術見本市。両者の出会いの場としてパフォーミング・アーツ界の発展に大きな役割を果たしている。東京芸術見本市のマーケットが、2007年3月5日(月)〜8(木)に行われる。今回は音楽・ダンス・演劇に変わる、約30アーティストを紹介する予定。TRAMはプロフェッショナル向けのマーケットだが、一般の観客も参加できる。ショーケースで観客に人気のアーティストのステージを見たり、舞台の裏面がわかるセミナーを受けたり、気軽に楽しんでみては?

DDD dancedancedance

DDD dancedancedance 2007年1月1日発行・1月号

THE AGENDA

BY DAN GRUNEBaum



concert NEW DEVELOPMENTS IN JAZZ, 2007

PART OF THE TOKYO PERFORMING ARTS MARKET, "NEW DEVELOPMENTS IN JAZZ, 2007" is a look at the latest currents in Japanese jazz curated by noted critic Teruto Soejima. The concert will feature three groups: the SXQ sax quintet focuses not on melodies or compositions, but on the raw tonalities of the saxophone itself. Sallie Gaveau is a cutting-edge group that takes the rhythms of Argentine tango into uncharted territory, and Hikashu, formed in 1978, debuted as a New Wave rock band but have gone on to absorb elements of techno, noise, jazz and even underground theater. Marunouchi Building Hall, Mar 5. See concert listings (jazz/world) for details.

JAZZ/WORLD

New Developments in Jazz
Part of the Tokyo Performing Arts Market. With performances by SXQ saxquintet, Sallie Gaveau and Hikashu. Mar 5, 6pm, ¥2,000 (one-day pass) ¥4,000 (four-day pass). Tokyo International Forum, Marunouchi Building Hall. Tel: TRAM 03-5724-4660. www.tjpm.or.jp

メトロポリス 2007年2月23日発行・第674号

C 2

MAANANTAINA 23. HUHTIKUUTA 2007 | HELSINGIN SANOMAT

KULTTUURI

Hylätkää taide, tanssikkaa kaduilla

» Tokion kaduilla hiphopataan, teatterissa on tarjolla kabukia ja vihreää teetä

Auli Räsänen

TOKIO. Hylätkää taide! Tanssi on jo siirtynyt teatterista kadulle, julistaa kolmekymppinen tokiolainen tanssiryhmä Takao Norikoshi.

Vahvistukseksi viitteensä Norikoshi kutsui Tokion esittävän taitteen markkinoille kolme esitystä, jotka todistavat, että uudet asiat syntyvät ja kehittyvät instituutioiden ulkopuolella.

Uutuuskia esiteltiin kylätkin esillä eiä kadulla, sillä Tokiossa oli maaliskuussa pekkurikesänsä kylä.

Kaksi muuta miestä, jotka esiintyivät yhteisellä Hamamatsu Serve, tanssivat hiphoppia ennen näkemättömän rennolla tyyliä noudaten ja yhä- aikaisi, kuin animoituina piirroshahmoina.

Hiphop on muuttanut tanssitaiteesta ennen sitten postmodernin tanssin synny.

Huikan kaverit muuttivat mangon kuluksika hahmoja, mutta tanssina he olivat hioneet moitteettoman sujuvaksi. Työdenkunnan tanssin uusi taiteellinen johtaja Harri Kuorelahti innosti Tokiossa

esityksestä niin, että nuoret miehet kenties jo ensi vuonna nähdään esiintymässä Pyhäjärven festivaalilla.

Klovniki, namsioitunut breikanssi **Hitoride Dekurumon** on liikkeen virtuoosi. Hän tekee liikesarjoja henkialpavan taidokkaasti, koomikon otteella. Hänessä vallanpitäjien pilkkamisesta nauttiva ikäihminen ilveilyhahmo yhdistyy karutanssijan rentoon meininkiin.

Entä mitä kuuluu Japanin omaperiselle tanssintuotukselle butō? Jo vuosi sitten sen ennustettiin rappeutuvan, kun eurooppalaiset Japaniharrastajat tarttuivat siihen.

No, harrastajat tulevat asiasta omalla tyyllillä, japanilaiset ammattilaiset omallaan. Esintävän taitteen markkinoilla nuori mies tanssi uutta butoa arkivaatteissa, puserossa ja suorissa housuissa.

Buton alastomuudesta, poeettisuudesta ja hauraudesta ei ollut jälkeäkään. Mies oli vahvasti liinä ja vaatteettuna, olemukseltaan arkena, mutta mikään toimituslehti ei ollut kyseessä vaan trenattu tanssija.

Buton perinteiset ominai-

sudet, mystisyyden ja ilmailun värväuden, jotka tekivät viime syksynä sata vuotta täyttäneestä Kazuo Ohnosta aikokoinaan maailmankuulun, nuori polvi näyttää korvanneen asenteella.

Klassisen butoryhmän Dairakudakan esiintymispaikkana metroradan alla on pitkä matka – kuten Tokiossa nykyisin melkein kaikilla. Megapolis laajenee koko ajan, ja esitykset karkasvat yhä kauemaksi.

Dairakudakan on esiintynyt vuodesta 1972, jolloin Akaji Maro perusti ryhmän. Sen nykyiset esiintyjät edustavat jo buton viidettä sukupolvea, buton perustajan Takeshi Hijikatan oppilaina opitellut Maro edustaa toista sukupolvea.

Maro, 64, on tunnettu japanilainen action-näyttelijä (muutama muun muassa Quentin Tarantinon elokuvassa Kill Bill 1) ja toimii edelleen ryhmän taiteellisenä johtajana. Ryhmä käyttää valmenusmenetelminkin linjatunneksikin teatterissa tunnetun Noguchin rentoutumishoidon, jolla on saavutettu hyviä tuloksia ennen muuta fyysisen teatterin puolesta.

Dairakudakanin kokoonpano vaihtelee esittävien teosten mukaan. Tällä kertaa mukana oli vain nuoria miehiä, jotka kabukiteatterin tapaan esittivät myös teoksen muutamia naisrooleja. He ovat tyyppillisen butonistien näköisiä, niin lahoja, että kylläsiut paistavat, mutta järeitä. He esiintyivät useimmiten lähes alasti. Pää ja keho on kalkeittu valkoiseksi.

Tuomasi kuului ryhmän Kochoten-sarjaan, jossa nuoris esiintyjistä yksi vuorollaan voi tehdä pääroolisen kaikin taiteellisesti ratkaistua. Esitys kiisteli japanissa yleisä miesten elämän liittyväsi aihe, »ohso ja sen viideturkaki. Siä miten valta tuottaa alustamista melkein rituaalisena muotona.

Uskallat nuoret miehet kiipeivät näytelmällä, podottivat toisiaan alas ja kiivelivät toistensa yli.

Tokion keskustassa, Ginzaan kaupunginosaan sijaitseva Kabuki-za-teatteri tarjosi kabukiteatterin perinteistä herkkua: tunteja kestäväsi näkemäsi japanilaisa kansannäytelmää. Nätti ei voi eikä tarvitsekaan modernia. Kabukin mestarit ovat tehneet jo 1700-luvulta lähtien herkkullista arkkitehtuuria.



Dairakudakan-ryhmän esitys Tokiossa käsittelee valtaa ja sen vaikutuksia. Siis miten valta tuottaa alustamista melkein rituaalisena muotona.



Kahden nuoren miehen ryhmä Hamamatsu Serve toi rentoa, piirrosanimaation näköistä hiphoppia Tokion esittävän taitteen markkinoille.

Näytelmät kestivät pitkään, koska näytelmiä on niissä kolmesta viiteen, ja välillä syödiä lounasta.

Sushin ja vihreän teen jälkeen jaksa taas paneutua kauppias sekavien avioluottol-

keisiin. Sievä morsian kun ei olekaan tyttö vaan poika, ja vaikka olisikin tyttö, ainakin esiintäsi on sevä muori mies, siihen voi ainakin luottaa.

HELSINGIN SANOMAT (フィンランド) 2007年4月23日発行

東京芸術見本市 2007／インターナショナル・ショーケース 2007

〈事務局スタッフ〉

事務局長	丸岡ひろみ
副事務局長	田村光男
副事務局長	大原典子
プログラム・ディレクター	小沢康夫
広報	中島香菜
国内プログラム担当	久保田夏実
海外プログラム担当	塚口麻里子
経理	高橋玲子
スタッフ	ジェイン北川

総合舞台監督・会場設営	飯田幸司（海藤オフィス）
舞台設営	C-COM
舞台監督	三橋 玄
照明・音響統括	関口裕二（balance, inc.）
照明	菅橋友紀（balance, inc. LIGHTING）
音響	金子伸也
受付統括	桑原綾子
ショーケース協力	但馬美菜子
当日スタッフ	吉福敦子、林 美佐、杉谷美香、川守慶之

クリエイティブ&アート・ディレクション	栗林和夫（クリとグラフィック）
デザイン&コピー	クリとグラフィック
DTP	吉福敦子
Web スタッフ	尾嶋 優、大谷有生
通訳	イディオリンク株式会社
翻訳	新井知行、近藤聡子
記録写真撮影	宮内 勝
記録映像撮影	古屋和臣、須永祐介
DVD 編集	古屋和臣
旅行アレンジメント	近畿日本ツーリスト株式会社
印刷	株式会社 雄進印刷



東京芸術見本市 2007／インターナショナル・ショーケース2007 開催報告書

編集・発行：東京芸術見本市事務局
150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-2 サウスビル 3F
Tel:03-5724-4660 / Fax:03-5724-4661
tpam@tpam.or.jp / www.tpam.or.jp

発行日：2007 年 7 月